野良の藝術2022―さぎ山の現場― 熱・分解と融合

実施者：社会芸術・寺山支部 炭焼の会
助成事業名：野良の藝術2022-さぎ山の現場-熱・分解と融合

社会や地域の課題

見沼・さぎ山地区は地図上ではさいたま市の中央に位置するが、合併前の旧浦和・大宮市からは辺境であり、今日でもアクセスは疎い。不利は逆に、有利に転化可能だ。
「見沼三原則」を受け制定された「見沼田圃の保全・活用・創造の基本方針」により宅地化から免れ、残された広大な緑地帯であり、かつて三万羽ものサギが営巣し忽然と消えたその斜面林も現存する。
百年後に里山農が再興される場にふさわしく、創造性の働く高嶺だ。

取組概要及び成果

「野良の藝術」の農と芸術の活動により、「１　土とのつながり」、「２　炭焼にまつわる熱分解」、「３　人々との交流と主題の共有」をテーマに事業を行った。
芸術とは、地球に生きる人間の探求とそれぞれのアイデンティティーの確立にある。地球史を踏まえ人類の立ち位置を確認すれば、根源的に世の中で役に立つことであり、旧来の芸術に規定された装飾美や癒しを超え、本来の生きる勇気として今日に復権する。つまり、野良の藝術活動は里山農と安全な食の問題解決と一致する。
さいたま市における見沼・さぎ山地域の立ち位置の向上を求め、里山農法に向けた未来社会づくり、一つのモチーフを手掛かりに統合する種本を検討し、野良に関わる他地域との交流に力を注ぐ。同時に次世代へのかけ渡し（世代交代）を図る。